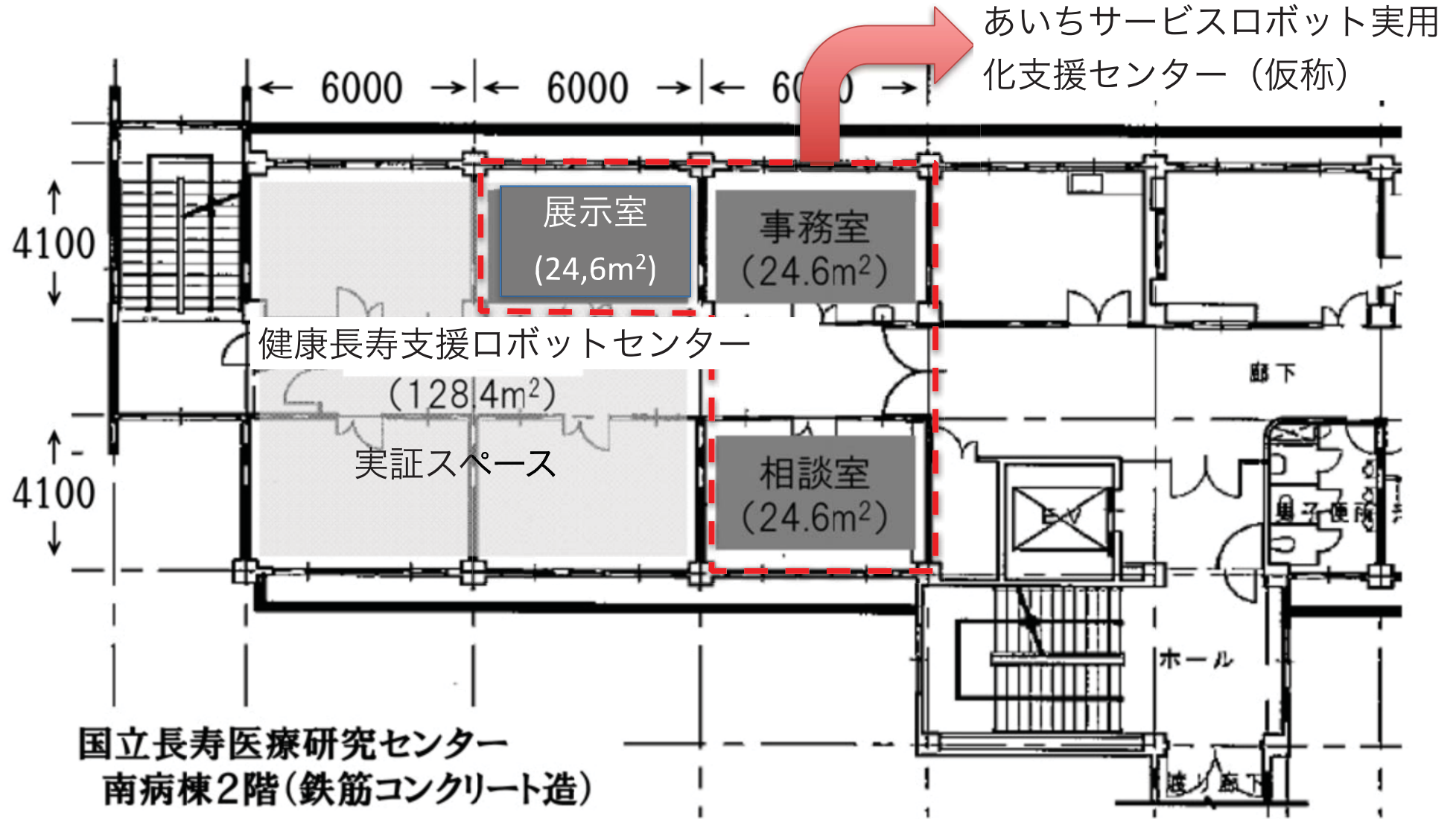


# ロボットセンター配置図



# センター概要（長寿生活支援ロボットセンター）

- 医学系グループ

- 効果の実証と生活導入を行う
- シーズおよびニーズの収集とデータベースを作成し、県側にも提供
- 認知症の高齢者とその家族のニーズの把握にも注力する
- 県側と協力して、開発に関わる情報発信を行う

- 工学系グループ

- 診療関連機器開発の業績の強みを活かして、センター独自の開発拠点を形成する
- 工学的な知識を活かして、シーズのマッチングを行い、実証段階への伸展を早める

# 現場のニーズについて

# Successful Aging で必要なのは? Rowe and Kahn 1997

1. 疾病または疾病による障害がないこと
2. 高い認知および身体能力を保持すること
3. 上記を前提として、積極的な人生を送ること

# 積極的な人生を送るためには

- スマートテクノロジーの発達とそれへのアクセスを容易にすること
- スマートテクノロジーによる見守りと健康および生活の維持
- さらに、高齢者を地域および在宅医療へ結びつけることなどが必要

# ロボットの現状と期待

2012, JAR, Pearce et. al,

- ロボットは掃除、手術および監視カメラの分野ではすでに十分な有用性を確保している
- ただし、今後は個別の必要性に応えるだけではなく、所有者の要求に応じて学習し、行動を修正できなければならない
- 高齢者のロボットニーズに応え、移動手段の確保、健康の維持、安全保持および社会との交流を保証するためには、そうであるべき

# 現場のニーズ

- 屋外における移動手段
- 健康増進
- 見守り
- 在宅生活支援機器
- 介護機器

認知症

## 世界的な認知症に関するフレームワーク

- ◆ 「世界的な認知症に関するフレームワーク」は、3月16・17日、スイス・ジュネーブで開催された「認知症に対する世界的アクションに関する第1回WHO大臣級会合」において、認知症に取り組む各国や各団体が、自らのコミットメントを表明したもの。
- ◆ それぞれのコミットメントは、「ケア」「治療」「リーダーシップ」「開かれた科学とデータ」「研究」「権利」「リスク軽減」の7つの軸に従って集約された上で、共有・公表されたところであり、今後、各国・各団体は、当該コミットメントに沿って認知症施策を推進していくこととなる。
- ◆ 「世界的な認知症に関するフレームワーク」のうち、日本政府による提案は以下のとおり。

Area 分野	Commitments of Japan 日本のコミットメント
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Japan will also explore the potential of the new care devices using ICT an accumulated knowledge and experiences of dementia care.</li> <li>• また、日本は、ICTやロボット等を利用した新しいケアの可能性を追求し</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• また、日本は、ICTやロボット等を利用した新しいケアの可能性を追求し、蓄積された経験や知識を世界と共有することを検討する。</li> </ul>
Cure 治療	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Japan will aim at creating a domestic registry system for persons with dementia, considering possible collaboration with global partners which intend to establish the same registry.</li> <li>• 日本国内で(将来の臨床研究を念頭に置いた)認知症の人のレジストリシステムの構築を目指しつつ、世界各国の同様の取組と連携を図れるよう各国と検討する。</li> </ul>
Leadership	<ul style="list-style-type: none"> <li>• National Dementia Plan</li> </ul>



# Special Thanks to.....

独立行政法人国立長寿医療研究センター  
尾崎健一  
佐竹昭介  
Winglet研究班の皆様へ

藤田保健衛生大学  
才藤栄一  
加賀谷斉  
平野哲

名城大学  
福田敏男

名古屋大学  
長谷川義久

トヨタ自動車株式会社  
パートナーロボット開発部の皆様へ

